



◀足利義尚公陣所跡（昭和時代撮影）

220

地域の中での”^{まがり}鉤の陣“

りっとう 再発見



▲「鉤陣山」の額が掲げられた永正寺本堂



▲神木 杉老樹（昭和時代撮影）

テレビドラマや小説、ゲームなどで題材にされること
が多い戦国時代。その始まりを考える上で注目すべき出
来事の一つが、鉤の陣^{まがり}です。長享元年（1487）9月、
室町幕府第9代将軍・足利義尚（1465～1489）
は、近江国の守護である六角氏を討つために自ら出陣し
ました。義尚はまず、東方山安養寺（安養寺）に陣を構
え、その後、鉤（上鉤・下鉤、安養寺一帯）の地に陣を
移します。

永正寺（上鉤）は、江戸時代以来、鉤の陣の有力な
候補地の一つと考えられてきました。そして昭和35年
（1960）には、永正寺とその周辺が「足利義尚公陣
所跡」として栗東町の史跡に指定されています。昭和31
年（1956）に制定された栗東町文化財保護条例に基
づくもので、第17号として指定されました。永正寺に現
存する土塁遺構^{どぶらいつく}が鉤の陣に関連して築かれたものである
ことを裏付ける確実な証拠は確認されていませんが、地
域の歴史を物語る文化財として、その価値が早い段階か

ら認識されていたことが分かります。現在の永正寺は「鉤
陣山」という山号を冠していますが、明治時代の文献に
は「鉤山」という山号で紹介されています。現在の山号
を冠するようになったのがいつ頃のことかは詳しくは分
かりませんが、鉤の陣の有力な候補地であることを大切
にする思いが伝わってきます。

また、泊瀬部神社（下鉤）には、「御杉様」と呼ばれ
る神木が残されていました。鉤の陣を敷いた義尚が泊瀬
部神社を鎮守社として崇敬し、自ら植えたと伝えられて
きたこの杉も、昭和34年（1959）に天然記念物「神
木 杉老樹」として栗東町の第12号指定文化財に指定さ
れています。この杉の木は昭和52年（1977）に枯死
したため指定解除されましたが、鉤の陣ゆかりの伝承と
して興味深いものと言えるでしょう。

栗東歴史民俗博物館

TEL 554-2733 FAX 554-2755

■小地域展「上鉤の歴史と文化」

会期 3月7日(土)から5月10日(日)まで

※詳細はお知らせ版8ページをご覧ください。

◆令和8年度には、栗東町文化財保護条例制定
70周年を記念する展覧会を開催予定です。

令和6年度スローガンコンテスト

努力賞 あいさつを 続けて繋ぐ 笑顔の輪